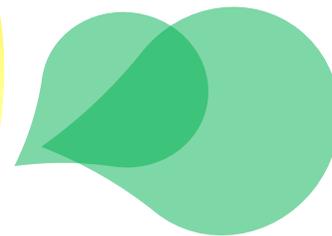


やっち

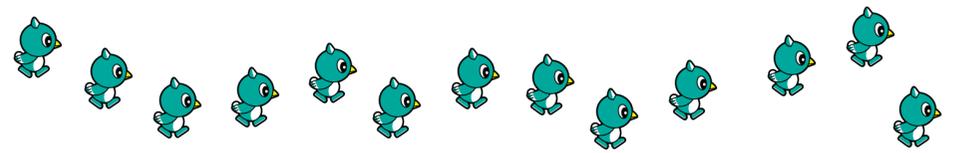


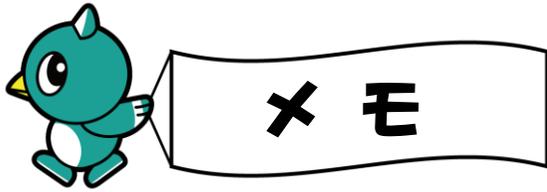
やっち

通学路 旗振り誘導
ハンドブック

八千代市







はじめに 保護者の方へ

日頃から、児童等の安全な通行のため、通学路での旗振り誘導にご協力をいただき、誠にありがとうございます。

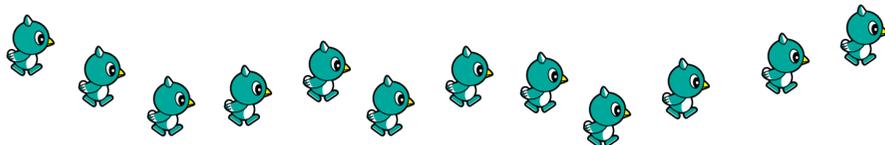
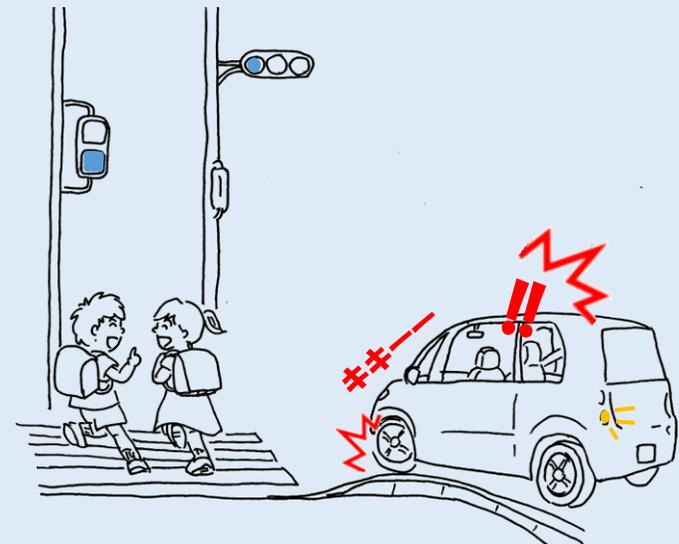
横断の誘導にご利用いただいている「横断旗」の使い方をハンドブックとしてまとめました。

児童と誘導する皆様の安全を守るために、ご活用いただければと思います。

小学生の事故の特徴

小学生になると、登下校中の際に友達とふざけたり話に夢中になるなど、車などが来ていることに気が付かなくなり、歩行中の「飛び出し事故」「横断中の事故」が急増します。

登校する場合は、時間に余裕をもって早めに家を出るようにご指導をお願いします。また、遊びに出る場合は、保護者に行き先を告げ、あまり遠くへ行ったり、暗くなるまで遊んだりしないようご指導をお願いします。



児童の特性

児童の発達段階によって、危険予測の能力や危険回避能力には差があることを理解してあげることが大切です。

児童は、大人よりも視野がせまく、目の高さも低いため、大人が見えている危険が児童には見えていないことが多いがあります。

特に交通量が多く見通しの悪い道路や、道幅が狭く信号がない道路は、保護者の方々の見守りをお願いします。

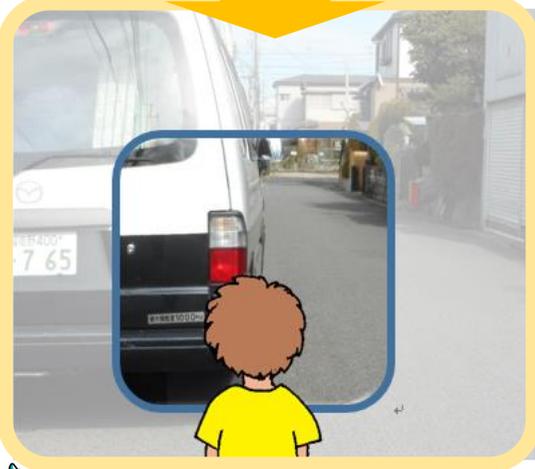
「右見て、左見て…」だけでは 車も道路も見えていないかも知れません。

子どもと大人では見えているものが違います

◆子どもと大人の視野の違い



子どもの視野は水平・垂直ともに大人よりも狭く、視点も低いため、大人に見えているものが見えていないことがあります。



子どもが、危険に遭遇した時の回避能力は、大人が思っているほど発達していません。

車を運転する保護者の方へ

～セーフストップの徹底を！！～

前方

「前方」をよく見て運転、横断歩道に十分注意

前をよく見て安全運転、横断歩道を発見したら、その周りに歩行者等がないか十分注意！



ブレーキ

横断歩道の手前では、「ブレーキ」操作で安全確認

渡ろうとする歩行者等がいるかも知れない場合は、横断歩道の手前で停まれる速度で進もう！



ライト

横断歩道でも3(サン)・「ライト」で交通事故防止

車の「ライト」早めの点灯、小まめな切り替えで横断者を早期発見

横断者も反射材等で「ライト」アップ

「ライト」(右)からの横断者にも注意



注意すること



「横断旗」は、ドライバーと歩行者への大切な合図です！

- 自分の身を守る。
 - ※車から見えにくい場所に立たない。
 - ※突然時、逃げ場のない場所に立たない。
- 車が並んでしまったり、児童がたまっても慌てない。
- 合図は、大きく、はっきり正確に行う。
- 呼吸を合わせる。
 - ※2人以上で行う場合、リーダーを決め、声を掛け合ってお互いが異なる合図を出さない。
- 信号に従う。
 - ※青の点滅信号（黄色信号）で児童を横断させてはいけません。
- ドライバーには、協力してもらう姿勢で感謝の気持ちを持つ。
（「横断旗」には、車を止める強制力はありません。）
※交通ルールを無視し、これに従わない者もいることを念頭において活動する。
- 大型車は止めない。
 - ※大型車の後続車が前方を確認できずに衝突したり、横断中の児童に気づかずに大型車を追い越して事故につながる可能性があります。
- 子どもの自ら学ぶ機会を奪わない。
 - ※大人自らが、交通ルールを守るお手本を示しましょう

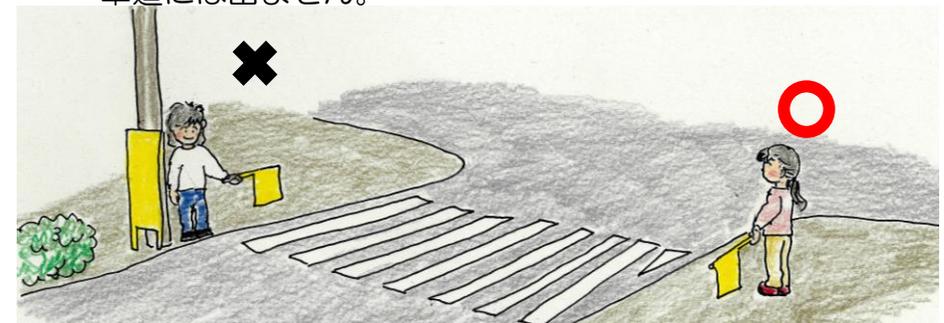
旗振りの前に

□誘導する時の安全な服装

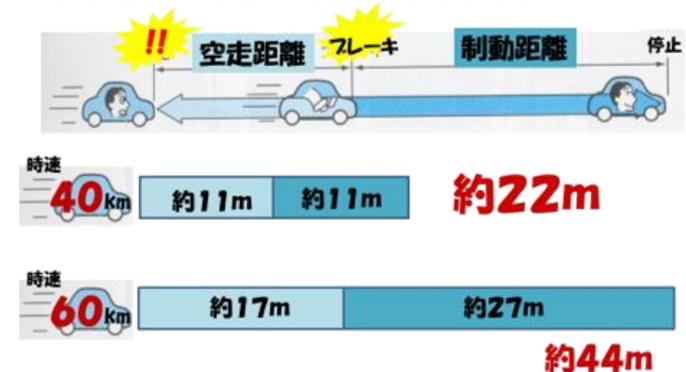
- 車から見えやすい、目立つ（反射材等活用）服装
- 動きやすい、かかとの低い靴
- 雨の時は傘を持たず、レインコートを着用
- 乳児、幼児を現場に連れて行かない。

□誘導者の立つ位置

- 歩行者や自転車の通行の妨げになる場所や、看板や電柱の陰になる場所を避けて、身体は車道側に向け、車からよく見える位置に立ちます。
- ※横断歩道がある場合、右端に立ちます。
- 車道には出ません。



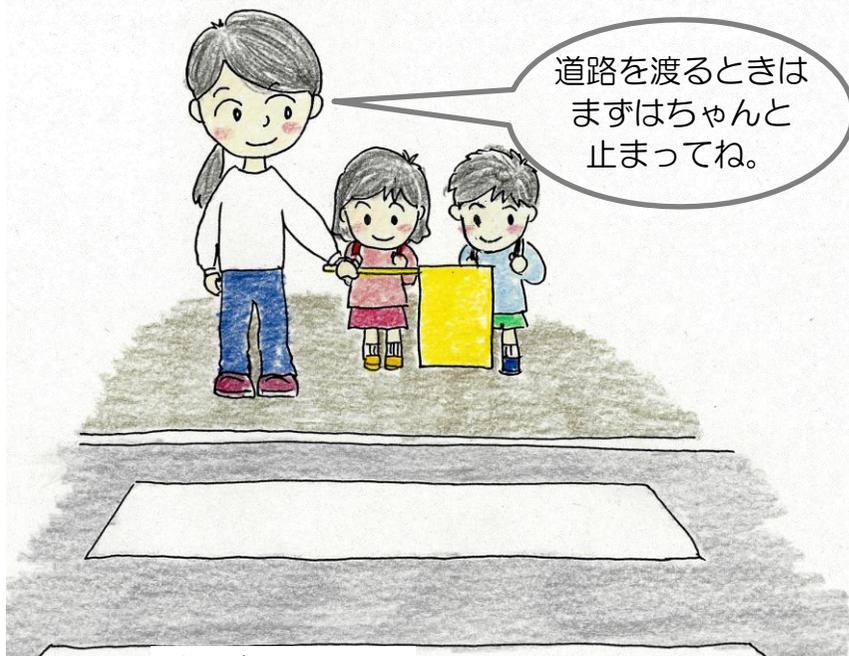
- 横断旗を上げて合図する時は、車が停止するための十分な距離があることを確認します。



横断旗の使い方

1 児童を待たせる時

- ①横断旗を左手に持ち、道路に並行に上げ、児童が飛び出したりできないように持ちます。
- ②「道路の端から下がって待とうね。」と声をかけます。



指導 point!!

車が走るところより
下がって
止まろうね。



④ (注意の動作)

- 旗を右斜め上に上げ
ドライバーに合図する。
- 左手で児童を抑えておく。



⑤ 歩行者止まれの姿勢 (基本姿勢)

- 旗を左手で持ち
腰の位置で構える。
- 旗で児童を抑えておく。



⑥ ドライバーへのお礼

- 協力してくれたドライバーに
会釈して感謝の気持ちを
伝える。

まとめ：旗振り誘導の流れ



① 歩行者止まれの姿勢 (基本姿勢)

- 旗を左手で持ち腰の位置で構える。
- 旗で児童を抑えておく。
- 車の流れをよく見て状況を判断する。



② (注意の動作)

- 旗を右斜め上に上げドライバーに合図する。
- 左手で児童を抑えておく。



③ (歩行者進めの動作)

- 旗を道路に向かって並行に下ろす。
- 安全確認してから児童を誘導する。

2 車に止まってもらう時

- ① 左右や周囲の安全を確かめます。
- ② 児童が飛び出さないように左手で抑えながら、横断旗を右手に持ち替えいったん頭上に上げてドライバーに合図します。
- ③ 左手で、児童が飛び出さないように抑えます。
※車が停止しても、すぐに横断せず、完全に止まっていることを確認します。
※車が止まらなかった場合は無理に止めず、通過車両がなくなるまで待ちます。



3 児童を横断させる時

①車が止まってくれたら、もう一度安全を児童と一緒に確かめます。

※すり抜けてくる自転車やバイクに注意しましょう。

②横断旗を車道に並行に出し、児童を渡らせます。

③「左右の安全確認をしましょう。」

「手を大きく上げましょう。」

「車が曲がって来ないか見ましょう。」と指導します。



4 児童が横断し終わったら

①児童が渡りきったら、右手の横断旗を頭上に上げてから左手に持ち替えて、後から来る児童を抑えます。

※児童に旗をぶつけないように注意しましょう。

②協力してくれたドライバーに、会釈するなどして感謝の気持ちを伝えましょう。

